

エロール伯爵

- 1 陽気で明るい五月のこと
パースに一人の陪審員が座っていました
その両側にはパースの気高き公爵カーネギーと
サー・ギルバート・ヘイが控えておりました
- 2 キングサイド卿には二人の娘がおりました
二人は礼儀正しくまじめで立派な娘でした
カーネギー卿にもその二人をしのぐ
二人の娘がおりました
- 3 ギルバート・ヘイことエロールは服を整えました
とつても似つかわしい風情になるように
その服は端から端まで
黄金糸きんで縁取られていました
- 4 「お願いが お願いがありますカーネギー卿
あなた様にお頼みしたきことがございます
ジーンお嬢様に私の妻になつていただきました
こちらに参つたしだいでございます」
- 5 「娘のジーンは昨日の晩
気高き殿方と結婚しましたぞ
ジーンに与えた金貨一ギニーに対して
ケイトと結婚すれば三ギニーの割合にしよう
- 6 「ジーン・カーネギーには
千五百ポンド与えたわけだから
ケイトと結婚すれば その三倍
四千五百ポンド与えよう」
- 7 エロールはケイトと結婚しました
大切に彼女を家に連れて帰りました
二人の間に平安はありませんでした
再び別れるその時まで
- 8 鐘が鳴り ミサが歌われ
人々がみな寝静まったとき
エロールとケイトは
一つのベッドに横になりました
- 9 朝早くのことでした

カーネギー卿が現れて
エロールとケイトは
急ぎ服を身に着けました

10 カーネギー卿は娘に尋ねました

「ケイト 持参金は渡したか」

「エロールにお尋ねくださいませ

もしよい義子とおぼしめしなれば

11 「どうして私がペチコートを洗って

門かんばんに掛けたりしなければならぬの
だっていまだ私は純潔な乙女

昨晚 夫と一つのベッドに寝ましたが

12 「どうして私がエプロンを洗って

ドアに掛けたりしなければならぬの
こんなに大きなエプロンを

だらりと掛けていなくてはならないの」

13 カーネギー卿は娘に尋ねました

「おおケイト どうだろう

エロールを酔っぱらわせれば

欺いて持参金を取り戻すこともできようぞ」

14 「お父様 どうやってエロールを騙そうと

何をしようというのです

私は裁きの場で誓ってもいいわ

夫が能力のない男だと」

15 エロールは階段を下りてきて

鹿のように大胆に言いました

「アイルランド製の馬車に鞍をのせよ

今からエディンバラに行ってくる」

16 エロールはエディンバラに着くと

緑の草の上に降り立ちました

そこでは二十四人の乙女たちが

輪になって踊っておりました

17 二十四人もの乙女たちが

並んで踊っておりました
一番健康で美しい娘を
エロールはベッドに誘うつもり

18 彼はペギーの手をとって
青々とした野原を通って戻り
妻の目の前で
二十回彼女に口づけをしました

19 彼はペギーの手をとって
玄関の広間を通り
気高き人々の集まる前で
二十回彼女に口づけをしました

20 「顔をあげよ 顔をあげよ 私の恋人ペギー
顔をあげるのだ 何も恥じることはない
一千ポンドをお前に与えよう
私に息子を産んでくれたら」

21 彼はペギーを自分の部屋に連れて行き
九カ月のあいだ閉じ込めて
ちやうど九カ月の終わりに
ペギーは男の子を産みました

22 「さあケイト・カーネギー
私はサー・ギルバート・ヘイ
私はお前の父親に土地を売らせようぞ
夫である私への持参金を払うため」

23 「お父様に土地を売らせるなんて
なんと恥ずべきことでしょう
夫として無能な失格者に
持参金を払うなんてとんでもないわ」

24 「黙れ 不埒な女め
そんなに大声で戯言たわごとを申す
向こうに座っているのはエロール様の息子
あの母親の膝の上にいる子のことだ
向こうに座っているのはエロール様の息子
確かにお前の子ではないが」

「そなたは自分の娘を連れ帰るがいい
 そして溪谷に座らせるがいい
 エロールは彼女を喜ばせることができなかつた
 しかしどの男にも無理なこと
 エロールは彼女を喜ばせることができなかつた
 しかし男二十人呼んだとて到底無理なこと」

乙女がわめき うろついていることを
 私たちは知っている
 彼女はあの晩 自分の立場を失つた
 あの最初の晩 彼女が横になつたあの晩
 私たちが戯言たわごとというあの事を
 乙女は独り座敷牢でわめいている